

[第5学年及び第6学年]目標(「学びに向かう力、人間性等」の単元目標)

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
  - (2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
  - (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
- 「学習内容」…△知識・技能 ◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	4月	2 (話す聞く2)	何を知りたいのかを考えてしつもんしよう 見つけたよ! 教科書:P8  ◇自分が聞こうとする意図に応じて、知りたいことは何かを考えて質問をし、自分の考えをもつ。	話聞	1	<見通しをもとう> 1. 学習の見通しをもつ。 * カードを使ったゲームをすることを伝える。ゲームでは、同じカードとペアになったらあがりであることを伝える。ただし、カードを他の人には見せず、質問し合いながらペアを見つけることを伝える。 2. 「りんご」から連想される言葉を集める。 * 例として、p8にある「りんご」から連想した言葉を紹介する。「りんご」では、色や形、分類などさまざまな面から「りんご」に関わる言葉を集めている。p8では、マッピングが1まず空いている。クラス全体で、残りの1まずを考える。 3. カードをもらう。 * 教師が児童にカードを配付する。児童はカードをもらったら、そのカードに描かれたものから連想する言葉を思い浮かべる。「りんご」で行ったときと同じように、さまざまな面から言葉を集められるとよい。(ワークシートを用いる。) 4. ルールを知る。 * p9を見ながら、ルールとゲームの進め方について丁寧に確かめる。 5. ゲームをする。 * 早くペアを見つけることだけに注力することは避ける。あくまで、友達との1対1のコミュニケーションを楽しみ、言葉を介して友達とイメージが合致する喜びを大切にす。	【知識・技能】 ◎言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。(1)ア)  【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A1)エ)  【言語活動例】 ・インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。(A2)イ)  【態度】 ・すすんで、自分が聞こうとする意図に応じて、知りたいことは何かを考えて、学習課題にそって質問をし、自分の考えをもとうとしている。
					2	6. カードを配り直して、ゲームを何回か行う。 * やり方について簡単に確認してから始める。  <ふり返ろう> 7. 学習の振り返りをする。	
1学期	4月	1	楽しく声に出して読もう 水平線／うぐいす 教科書:P10  □目や耳で捉えた世界の感じ方を想像しながら詩を読む。	読む	1	1. 『水平線』を音読する。 * 繰り返される「……ある」という言葉の響きに気をつけて音読する。 * 繰り返されている言葉(「水平線がある」「一直線にある」「はっきりとある」「どこまでもある」)に同じ色でサイドラインを引き、視覚的に確認する。  2. 「ある」の繰り返しを声に出して読み、耳で聞くことでどう感じるかを交流する。 * 各連それぞれに三箇所ずつ「ある」がある。脚韻としての効果もあるが、断定を繰り返すことの力強さもあることに気づくことができるように音読させる。  3. 「水平線」という言葉から感じられることを話し合う。 * 一度しか現れない言葉(「ゆれているはずなのに」「空とはちがうぞと」「ほんとうの強さみたいに」)の言葉から感じられることを発表し合う。 * 「はずなのに」「ちがうぞ」という表現を別の言葉に言いかえてみることで、海の延長線でもない、空の下限でもない、「水平線」なのだという存在の主張を感じ取ることができるようにする。  4. 『うぐいす』を音読する。  5. 「すきとおる」と感じた作者の耳の傾け方を想像して、作者が気づいたり感じたりした周りの様子を話し合う。 * うぐいすの声を聞いた経験や、音源などを活用して鳴き声を聞いた感想を交流させ、詩の世界に導きたい。 * 二つの連に共通する表現と描かれた情景の異なる表現に着目させ、作者の聴き方や周りの様子を想像させるようにする。  6. うぐいすの声の響き、鳴き声と情景などの広がりを、間や声の調子に気をつけて音読する。 * 耳を傾けている様子や現れてくる周囲の情景が、間や読み方の強弱などに表れるように工夫して音読を楽しむようにさせる。	【知識・技能】 ◎比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(1)ク) ◎文章を音読したり朗読したりしている。(1)ケ)  【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C1)エ)  【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2)イ)  【態度】 ・すすんで詩の目や耳で捉えた世界の感じ方を想像し、学習の見通しをもって言葉の響きに気をつけながら、音読しようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	4～5月	8 (書く2)	<p>一 登場人物のしんじょうをそうぞうして読もう いつか、大切なところ 教科書:P14</p> <p>□登場人物の心情の移り変わりを考えながら読む。</p> <p>★ここが大事:しんじょうを読む</p> <p>☆学習用語:情景／心情／中心人物／登場人物／題名／擬音語／擬態語／作者／対句／倒置／反復／比喻</p>	読む	1・2	<p>&lt;見通しをもとう&gt;</p> <p>1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。</p> <p>&lt;たしかめよう&gt;</p> <p>2. 登場人物と中心人物を確認し、中心人物の心情の変化について考える。</p> <p>(1)登場人物と中心人物を確認する。</p> <p>(2)中心人物である亮太の心情が、物語の中でどのように変化したかを確認する。</p> <p>＊教科書P28下段の例を参考にしたり、これまで読んだことのある物語文で確認したりしながら取り組むとよい。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。(1)ク)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>◎「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C1)イ)</p> <p>○「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C1)エ)</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2)イ)</p> <p>【態度】</p> <p>・すすんで物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって、登場人物の心情の移り変わりを考えながら読もうとしている。</p>
					3～5	<p>&lt;くわしくよう&gt;</p> <p>3. 揺れ動く亮太の心情について、工夫してノートにまとめる。</p> <p>＊亮太のゆれ動く心情がわかる表現にサイドラインを引き、場面ごとに抜き出し、表や吹き出し等を使ってその時の亮太の心情を考えてノートにまとめる。</p> <p>＊「ここが大事」にもあるように、登場人物の心情が、表情、態度や仕草、会話やつぶやき、情景などによって表現されている。「効果的な表現の例」として挙げられている比喻、反復、擬音語、擬態語、倒置、対句などに注意して読むようにする。</p> <p>＊この教材は、語りによって、展開されている。語り手が述べているところにも、登場人物の心情が表現されていることもおさえるとよい。</p> <p>＊表や吹き出しなど、既習の整理方法を用いて工夫してノートにまとめるようにする。感情曲線のような視覚的なものの捉え方をしてもよい。</p> <p>＊ノートではなく、付箋紙や短冊など用紙を工夫してもよい。</p>	
					6	<p>&lt;まとめよう&gt;</p> <p>4. 題名「いつか、大切なところ」について、亮太にとっての意味を心の動きを手がかりに考える。</p>	
					7	<p>&lt;つたえあおう&gt;</p> <p>5. 題名「いつか、大切なところ」について考えたことを共有する。</p> <p>＊互いの考えの違いに着目したり、よいところを認め合ったりして、考えを広げる。</p>	
1学期	5月	4 (書く1)	<p>情報の宝箱 新聞を読もう 教科書:P32</p> <p>□新聞の仕組みを知り、それをもとに同じ出来事を扱った新聞記事を読み比べたり、内容や見出し、写真などについて気づいたことを発表し合ったりする。</p> <p>☆学習用語:記者／逆三角形の構成／本文／マスメディア／見出し／要点／リード(前文)／解説／コラム／トップ記事／評論文／割り付け</p>	読む	1	<p>1. 学習の見通しをもって本文を読み、新聞の仕組みや内容への興味・関心を高める。</p> <p>2. 新聞の仕組みを理解する。</p> <p>(1)新聞の特長や新聞記事の構成、見出しやリードなどの用語を知る。</p> <p>(2)図や写真などの載せ方や配置(割り付け)について確認する。</p> <p>＊実際の新聞記事を活用することもできる。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ)</p> <p>◎「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C1)ア)</p> <p>○「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C1)ウ)</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2)ア)</p> <p>・説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめる活動。(C2)ア)</p> <p>・学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。(C2)ウ)</p> <p>【態度】</p> <p>・すすんで新聞の仕組みを知り、今までの学習を生かして新聞記事を読み比べたり、内容や見出し、写真などについて考えたことを話し合おうとしている。</p>
					2	<p>3. 新聞の内容や構成を比べ、違いについて考える。</p> <p>(1)新聞の内容や興味のある記事について伝え合う。</p> <p>(2)新聞の構成について、図や写真の載せ方や配置(割り付け)を中心に比べる。</p>	
					3・4	<p>4. 同じできごとを扱った新聞記事を読み比べ、内容や見出し、写真などについて気づいたことを話し合う。</p> <p>＊記事で印象に残った言葉や内容に着目して考えるように促す。</p> <p>＊考えた見出しが実際の記事と異なるかどうかより、児童の理由づけがしっかりできているかどうかで判断したい。</p> <p>5. 新聞についてわかったことをまとめ、お互いの考えを共有しながら学習を振り返る。</p> <p>＊4年で学習した『写真から読み取る』『作ろう学級新聞』等、今までの内容も想起させたい。</p>	
1学期	5月	3 (書く3)	<p>情報を集めて整理しよう 情報ノート 教科書:P38</p> <p>■興味をもったり、疑問に思ったりしたことについて、情報を集めて「情報ノート」を作る。</p> <p>☆学習用語:情報／資料／新聞／出典／見出し</p>	書く	1	<p>1. 情報ノートを作る目的と意味を理解し、学習の見通しをもつ。</p> <p>＊情報の集め方とその特性を交流する。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>◎「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア)</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2)ア)</p> <p>【態度】</p> <p>・積極的に文章の種類とその特徴について理解し、学習課題にそって感じたり考えたりしたことについて情報を集めて「情報ノート」を作ろうとしている。</p>
					2・3	<p>2. 情報を集める。</p> <p>＊知りたいことと情報媒体の特性を考えて集めさせる。</p> <p>＊この情報ノートを今後も活用するために、書いておく必要のあることを確認する。(出典・日付・筆者・出版社・自分の考えなど)</p> <p>3. 使う情報を選び、「情報ノート」を作る。</p> <p>＊「初めて知ったこと」「疑問に思ったこと」などの観点にそって、資料(新聞記事など)に端的に線を引くよう指導する。</p> <p>4. 学習を振り返る。</p> <p>＊「情報ノート」を作るためにした工夫を価値づけられるようにする。</p>	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	5月	1	漢字の広場① 漢字学習ノート 教科書:P40  △新しく学ぶ漢字や既習の漢字を取り立て、音訓・意味・使い方などを調べて漢字学習ノートを作る。	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ＊漢字ノートのまとめ方を理解するという学習課題を確かめ、今後の学習に生かしていくよう意識づける。  2. 「漢字学習ノート」にまとめる手順を理解する。 ＊P40の図を見て「漢字学習ノート」に、どのようなことがらを書くのか考える。 ＊新出漢字の学習に生かすためのノートであることをおさえる。 ＊国語ノートとは別に、漢字学習用として専用のノートを準備するとよい。 ＊年間を通して自主的な学習が続けられるよう、具体的な作成手順をしっかりとし身に付けさせる。  3. P40を参考にして、既習漢字の中の一字について、読み方・意味・使い方などを調べ、短文を考えて、「漢字学習ノート」に書き、まとめる。 ＊「快」を例に、一文字の漢字学習に必要な五つの過程について記入する要領を確認し、既習漢字の中の一字について、ノートにまとめるようにする。 ①読み方:音訓ともに扱う ②意味:訓読みから類推する。 ③字形:字の構成に着目する。 ④使い方:意味ごとに言葉を集める。 ⑤短文作り:その漢字を使って短文を作り、発表し合う。  4. 「漢字学習ノート」に書いた使い方と短文をそれぞれ発表し合う。 ＊友達の発表を聞くことで、熟語などの多様な使い方にもふれるとともに、友達の生活や関心事などをたがいに知る機会となる。友達から学んだこともノートに書き入れることをおさえる。 ＊新出漢字の日常学習として継続できるようにはたらきかける。  5. 「豆知識」コーナーの具体例を知り、その中から一つ選び、作ってみる。 ＊「漢字学習ノート」に「豆知識」を書き加える。	【知識・技能】 ◎文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。(1)ウ ◎第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ  【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって「漢字学習ノート」を作ろうとしている。
1学期	5月	1 (書く1)	四年生で学んだ漢字① 教科書:P42  △絵を見て想像したことをもとに、四年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	1	7. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 ＊絵の中にある四年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ＊絵に描かれたことと、言葉からわかる運動会の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。  8. 四年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ＊読み手が理解しやすいように伝えたいこと、知らせたいことを明確にして書くようはたらきかける。 ＊条件をつけて文を書くよう促すと、記述の仕方に工夫が見られるようになる。 (例)絵の中の言葉を二つ使って書く。  9. 作った文を互いに発表し合う。 ＊互いのよいところを発表し合うとよい。  10. 学習したことを振り返る。 ＊学習する漢字についてノートを作るなどして漢字や言葉に対する意識を高めたり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ  【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B1)イ  【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2)ア  【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書くようにしている。
1学期	5月	1	二 事例と解説をもとに筆者の考えを読みとこう ことなる見方 教科書:P44  □異なる見方についての事例と解説を読み、見方の違いに気づくことがわかり合うための第一歩だという筆者の主張に関心をもつ。  ☆学習用語:事例／解説／主張	読む	1	<見通しをもと> 1. 単元扉を読み、学習の見通しをもつ。  2. 同じできごとの話を聞いたのに、人によって別のできごとのように感じたと感じた経験について、伝え合う。  3. 図形の事例やその説明を読み、「事例」と「解説」の意味を理解する。 ＊異なる見方を同時にできないことについては、図形の事例で実際に確かめると説得力が増す。  4. 筆者の主張についてどう思うか、話し合う。 ＊児童の身近な経験と照らし合わせて考えられるとよいだろう。	【知識・技能】 ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2)ア  【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C1)ア  【言語活動例】 ・説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。(C2)ア  【態度】 ・積極的に事例と解説に気をつけながら文章を読み、学習の見通しをもって、異なる見方や筆者の主張について考えようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応		
1学期	6月	8 (書く2)	二 事例と解説をもとに筆者の考えを読みとこう <b>言葉と事実</b> 教科書:P46  □言葉と事実に関する事例と解説をもとに、筆者の考えを読み解くとともに、それに対する自分の考えを書き、事実を捉える際の言葉の働きについて考えを深める。  ★ここが大事:事例と解説  ☆学習用語:事実／事例／主張／解説	読む	1・2	<たしかめよう> 1. 「事実」について考え、事例について整理する。 (1)自分たちの経験から、「事実」とはどのようなことだと思いか伝え合い、本文を読んで確認する。 (2)三つの事例から、言葉と事実について、起こったこと、大切なこと・必要なことについて表にまとめる。	【知識・技能】 ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2ア)  【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1ウ) ○「読むこと」において、事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C1ア) ◎「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C1ウ)		
					3・4	<くわしくよう> 2. 整理した表をもとに、三つの事例のつながりについて考え、筆者が事例と解説をとおして「言葉」と「事実」がどのような関係にあると述べているか、話し合う。		【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2ア) ・説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめる活動。(C2ア)	
					5・6	<まとめよう> 3. 『言葉で事実』を読んで考えたことについて、筆者の主張や身近な事例に気をつけて書く。			【態度】 ・学習の見通しをもって事例と解説に気をつけながら粘り強く筆者の論の進め方について捉え、言葉と事実の関係について考えようとしている。
					7	<つたえあおう> 4. 言葉で事実を表すことについての考えを発表し合い、言葉と事実の関係や事例に気をつけながら話し合う。			
					8	<ふり返ろう> 5. 筆者の考えの読み取る活動や、言葉と事実の関係について自分の考えをまとめる活動で、どのようなところに気をつけたのか振り返る。			
1学期	6月	2	言葉の広場① <b>話し言葉と書き言葉</b> 教科書:P56  △話し言葉と書き言葉の特徴の違いについて理解したり、場に応じた言葉の選び方の違いや表現の仕方の違いについて理解したりする。  ☆学習用語:書き言葉／話し言葉	言語	1	1. 「話し言葉と書き言葉」について学ぶという学習内容を理解して、学習の見通しをもつ。 *話し言葉と書き言葉の違いについて考え、それぞれの特徴を理解して日常の言語生活でも注意していこうとする学習の見通しをもたせる。 *P56・57のインタビューの会話と学校新聞の記事だけを見せて、話し言葉と書き言葉ではどのような点が違っているかを発表させる。  2. 話し言葉と書き言葉を比べて、それぞれの特徴や性質の違いなどについて確かめる。 *なぜ、話し言葉と書き言葉では、表現に違いが出るのかを考えさせる。(目の前に相手がいるかどうか、対象があるかどうか、一過性かあとに残るかなど。)	【知識・技能】 ◎話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。(1イ)  【態度】 ・積極的に話し言葉と書き言葉の違いを理解し、学習課題にそって自身の言語生活を振り返って考えようとしている。		
					2	3. 「話し言葉のとくちょう」と「書き言葉のとくちょう」を見て、話し言葉と書き言葉の違いを確かめる。 *教科書に示されている話し言葉と書き言葉の特徴が、文例のどこに現れているのかを確かめさせる。  4. 「話し言葉のとくちょう」と「書き言葉のとくちょう」としてあげられているものが、実際にどのようなかたちで現れるか、具体的な場面を考えて発表する。 *教科書に示されている特徴の他にどのようなものがあるか、考えて発表する。 <話し言葉の特徴のその他の例> *イントネーションなどで調子が変わる。 *役割語や方言が現れやすい。 *「～ね。」などが語尾につくことがある。 *言葉の順序が入れかわることがある。 *同じことを繰り返すことがある。 *相手の話の途中で、差しはさむことができる。 <書き言葉の特徴のその他の例> *文字の種類や大きさ、書体などを変えることでいろいろな表現ができる。 *まちがった文字を書くこともある。 *読みにくい文字になることもある。 *道具や書式・装飾をこらすことで、付加価値をつけることができる。  5. 話し言葉と書き言葉の特徴について考え、日常の言語生活でも気をつけて話したり、書いたりしていこう話し合う。 *話し言葉と書き言葉の違いや性質、おもしろさを把握させ、日常生活でも気をつけて意思の疎通を図っていくことができるようにはたらきかける。  6. 学習したことを振り返る。			

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応	
1学期	6月	4 (話す聞く4)	三 伝わるように構成を考えよう すいせんしょう「町じまん」 教科書:P58  ◇相手が納得するように、事実と考え、感想を 区別した構成を工夫して、発表する。  ★ここが大事:聞き手がなっとくするような構成 で話す  ☆学習用語:推薦/課題/聞き手/経験/構 成/メモ/理由/結論/ポスター	話聞	1	<見通しをもとう> 1. 単元名や教材名から、本単元の目標や活動をつかむ。 (1) 聞き手が納得するように、構成を考えて話す力を伸ばすことを確認す る。  <決めよう・集めよう> 2. 自分が推薦するものを決めて、その特徴について調べる。 (1) 自分の住む町の自慢できるものを集める。 (2) 自分が推薦したいものを選ぶ。 * 大蔵大根を例に、p.59上段に示された観点(よいところ・課題・町とのつ ながり)を確認する。 (3) 自分が推薦するものの特徴について調べ、気づいたことをノートや ワークシートにまとめるようにする。	【知識・技能】 ◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語 句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ  【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常 生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付 けたりして、伝え合う内容を検討している。(A1)ア ◎「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるよ うに、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えて いる。(A1)イ  【言語活動例】 ・意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたり する活動。(A2)ア	
					2	<組み立てよう> 3. 聞き手が納得するような構成を考える。 (1) p.59下段に示された構成(始め方、理由の述べ方、終わり方)を例に、 どのような工夫をすればよいか考える。 * p.60・61の発表モデルと合わせて確認することで、具体的なイメージをも たせるようにする。 * 「ここが大事」を参照する。 (2) 発表の練習をする。 * 構成の工夫を意識できるように、小グループで発表の練習を見合うよ うにする。		【態度】 ・粘り強く、聞き手が納得するように事実と感想、意見を区別 して話の構成を考え、学習課題にそって発表しようとしてい る。
					3	<話そう・聞こう> 4. 発表会を開く。  <伝え合おう> 5. 感想を交流する。 * 納得した点と、どうして納得したのか、その理由について交流する。		
					4	<ふり返ろう> 6. 学習の振り返りをする。 * 振り返りの視点は次のとおりにする。 ① どんな点に注目して「町じまん」を選んだか。 ② 聞き手が納得するような発表にするために、どんな構成の工夫を考え たか。 * 振り返りを学級全体で共有し、これから相手が納得するためにどんな工 夫ができるか話し合うようにする。		
1学期	6月	5 (書く5)	三 伝わるように構成を考えよう 案内やしょうかいのポスター 教科書:P62  ■構成や表現を工夫して、ポスターを作る。  ★ここが大事:相手や目的、内容に合わせた構 成を考える  ☆学習用語:構成/ポスター/見出し/読み返 す/割り付け	書く	1	<見通しをもとう> 1. 「学習の進め方」を読んで、学習の見通しをもつ。 * 実際に使われているポスターを準備しておき、児童に見せて、ポスター のイメージを広げられるようにする。  <決めよう・集めよう> 2. 伝えたい内容や相手を決め、取材する。 * 掲示することで多くの人によさを伝えるというポスターのもつ機能を確認 し、どんな情報が盛り込まれているのかを整理させる。	【知識・技能】 ◎話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。(1)イ  【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章 全体の構成や展開を考えている。(B1)イ  【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝 えたいことを書く活動。(B2)ア  【態度】 ・すすんでポスター全体の構成や展開を考え、学習の見通し をもって、構成や表現を工夫してポスターを作ろうとしてい る。	
					2	<組み立てよう>(重点) 3. ポスターの構成を考える。 * どんな目的でポスターを作るかを意識させて、何を書くか考えさせる。 * 割り付け、タイトルなどにどのような工夫をすればよいか考えさせる。		
					3・4	<書こう> 4. 表現を工夫して、ポスターを作る。 * 伝えたいことを詳しく書いたり、大きな字で書いたりすることでわかりやす くなることを伝える。 * 図や写真を使ってわかりやすく書くよう助言する。 <読み返そう> 5. 読む人に伝わりやすいポスターになっているか、読み返す。		
					5	<伝え合おう> 6. ポスターを読み合い、感想を伝え合う。 * ポスターを実際に飾り、見た人から感想をもらう。その際、見る人に明確 に目的や意図が伝わる構成や表現になっているか、よりよい表現にするた めの助言を述べ合うようにさせたい。  <ふり返ろう> 7. 構成や表現をどのように工夫して、ポスターを作ったか振り返る。		

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	7月	3 (書く1)	<b>言葉の文化①</b> <b>漢文に親しむ</b> 教科書:P66  △現代の言葉とは異なる漢文のリズムや響きを読み味わう。  ☆学習用語:漢文／漢詩	文化	1	1. 『春暁』の情景を思いうかべ、リズムを感じながら音読する。 ＊ 白文を見て、漢字をもとに作品内容を想像し、感じたことを話し合う。そのあと「書き下し文」を大意とあわせて読み、作品世界をより鮮明に想像させる。 ＊ 書き下し文を繰り返し音読し、そのリズムと響きを感じ取らせる。	<b>【知識・技能】</b> ◎文章を音読したり朗読したりしている。(1)ケ ◎親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア  <b>【思考・判断・表現】</b> ○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ  <b>【言語活動例】</b> ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2)ア  <b>【態度】</b> ・積極的に現代の言葉とは異なる漢文のリズムや響きを理解し、今までの学習を生かして漢文を読み味わいながら音読しようとしている。
					2	2. 『静夜思』の情景を思いうかべ、リズムを感じながら音読する。 ＊ 繰り返し音読し、読み方を確認する。 ＊ 大意と写真を参考にしながら、情景や意味を考えさせる。 ＊ 音読しての感想を、自由に発表させてもよい。	
					3	3. 『論語』と『大学』にこめられた昔の人のものの見方や感じ方について考えたことをノートに書く。 ＊ 昔の人のものの見方や感じ方に関心をもたせ、自分たちのものの見方や感じ方と比べさせる。そして、考えたことを発表させる。 ＊ 繰り返し音読し、そのリズムと響きを感じ取らせる。音読しての感想を、自由に発表させてもよい。  4. 感想をまとめる。 ＊ 「見る・視る」「聞く・聴く」など、中国から来た漢字としての使い方に気づかせ、日本の文化にも生きていることにふれてもよい。	
1学期	7月	2	<b>言葉の広場②</b> <b>敬語</b> 教科書:P70  △敬語のはたらきと種類を理解して、正しく使う。  ☆学習用語:敬語／謙譲語／尊敬語／丁寧語	言語	1	1. 冒頭の電話のやりとりをとおして、相手による言葉づかいの違いに気づく。 ＊ 弟に話す場合と先生に話す場合で、どのように言葉が違っているのか確認させる。  2. 教科書を読んで敬語とそのはたらきについて理解する。 ＊ どの言葉が敬語なのか確認し、相手によって敬語を使うか使わないかを間違えると不自然だったり失礼だったりすることを知らせる。  3. 教科書を読み、敬語がどのような場面で使われるか理解する。 ＊ 敬語を使う場合を理解させ、場面を想定して、例文に倣って発表をさせるとよい。	<b>【知識・技能】</b> ◎日常よく使われる敬語を理解し使い慣れている。(1)キ  <b>【態度】</b> ・積極的に日常よく使われる敬語を理解し、今までの学習を生かして、敬語を使う場面や使い方に興味をもち正しく使おうとしている。
					2	4. 教科書を読み、敬語の種類別に、その働きと言葉の例を理解する。 ＊ 特別な言い方にもふれ、日常的に聞く言葉から、敬意表現を増やしていくようにする。  5. 敬語の種類を考えながら、適切に敬語を使用する。 ＊ 設問を解き、敬語を適切に使えるようにする。  6. 学習したことを振り返る。	
1学期	7月	1	<b>漢字の広場②</b> <b>複合語</b> 教科書:P74  △複合語の構成や変化、由来などについて理解を深める。  ☆学習用語:複合語	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ＊ 複合語について理解するという学習課題を確かめ、漢字の使い方などを理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。  2. 「食べる」と「始める」という言葉が組み合わせることができる言葉を考え、二つ以上の言葉が組み合わせられてきた複合語について、そのでき方と読み方を理解する。 ＊ 「食べる」＋「始める」→「食べ始める」をおさえ、それを使った短文にして考えるようにする。 ＊ 複合語の意味理解のために、元の言葉と比較することが大事である。 [例]「朝ご飯を食べる。」「朝ご飯を始める。」「朝ご飯を食べ始める。」「複合語では「食べる」が「食べ」となるように語形が変化することに着目できるようにする。  3. 「書く」「走る」「見る」＋「始める」をもとに複合語を作る。 ＊ 複合により、前の動詞の語形が変化することをおさえる。 ＊ 他にも「始める」を組み合わせた複合語の例があるか探してみる。 ＊ 二つ以上の言葉が組み合わせられて一つの言葉となったものを「複合語」と呼ぶことをおさえる。  4. 動きを表す言葉が組み合わせられてきた複合語を元の言葉に分け、構成について話し合う。 ＊ 「使い分ける」と元の言葉「使う」「分ける」の意味を比べる。 [例]「道具を使う。」「道具を分ける。」「道具を使い分ける。」  5. 複合語の言葉集めをし、短文を作る。 ＊ 短文を作り、文脈に即して意味を考えるようにする。 ＊ 「口＋続ける」は、ある時点で行われた動作を終わらせないように持続することの意味で使われる。  6. 動きを表す言葉以外にも、複合語があることを知る。 ＊ 「消す＋ゴム」などをもとに、どの言葉の語形が変化するか確かめる。  7. いろいろな組み合わせ方を知り、語形や音が変わる場合があることを確かめる。 ＊ 「厚焼きたまご」「借り物競走」のように三つ以上の成分から組み立てられる複合語もあることをおさえる。 ＊ 複合によっては、「落ち葉」「海開き」のように音が変わるものもある。これらについての理解は、日常の言語生活で習慣的に身につけてきた経験によるところが大きい。本教材によって定着を図りたい。そのために、声に出して読む場面を重視するとよい。  8. 二つの言葉が組み合わせるとき、あとの言葉の頭音が濁音になることを確かめる。 ＊ 「連濁」によって読み方が変化することが経験的に理解できればよい。 ＊ 短文を作り、声に出して読み方を確認できるようにするとよい。	<b>【知識・技能】</b> ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ  <b>【態度】</b> ・積極的に複合語の組み合わせ方について理解し、学習の見通しをもって、複合語について言葉集めをしようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	7月	1 (書く1)	四年生で学んだ漢字② 教科書:P76  △絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	2	9. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 * P78の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導する事柄を児童たち全体に示しやすくなる。 * 絵に描かれたことと、言葉からわかる家の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 * 描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。  10. 4年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 * 描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 * 読み手が理解しやすいように伝えたいこと、知らせたいことを明確にして書くようはたらきかける。 * 条件をつけて文を書くよう促すと、記述の仕方に工夫が見られるようになる。 (例)絵の中の言葉を二つ使って書く。  11. 作った文を互いに発表し合う。 * 互いのよいところを発表し合うとよい。 * 複合語について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。  12. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ  【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B1)イ  【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2)ア  【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書くとしている。
1学期	7月	1	読書の広場① 図書館を活用しよう 教科書:P77  △図書館にある資料や情報の特徴を知り、目的に応じて情報の集め方を使い分ける。	読書	1	<見通しをもとう> 1. 図書館にある資料や情報の特徴を知り、それを集めたり使い分けたりできるようにするという学習内容を捉え、見通しをもつ。  2. 図書館に置いてある資料・情報について知り、興味のあることからテーマを決めて、複数の資料を利用して調べる。  <ふり返ろう> 3. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付いている。(3)オ  【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C1)ウ  【言語活動例】 ・学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。(C2)ウ  【態度】 ・図書館にある資料・情報の特徴を知り、目的に応じて使い分けようとしている。
1学期	7月	1	読書の広場② ひろがる読書の世界 教科書:P80  △本についての話し合いや、おすすめの本のスピーチをする活動をとおして、日常的に読書に親しむ。	読書	1	<見通しをもとう> 1. 「本について話し合う」、「おすすめ本」をスピーチするという学習内容を捉え、学習の見通しをもつ。  2. 学校の図書室や地域の図書館などで、興味のある本を借りて、本について話し合ったり、「読書りれき」などを活用し、印象に残っている本についてスピーチしたりする。 * 夏休みの宿題との関連などが考えられる。  <ふり返ろう> 3. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付いている。(3)オ  【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C1)カ  【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2)イ  【態度】 ・読書生活を振り返り、「おすすめ本」をスピーチしたり、これからの読書生活を考えたりしている。
2学期	9月	2 (話す聞く2)	意図をもって話を聞き、考えたことをまとめよう 「対話」というやりとり 教科書:P82  ◇自分が聞きたいことは何か、意図をもって話を聞き、自分が考えたことをまとめる。	話聞	1	<見通しをもとう> 1. 教材名やリード文から、本教材の目標や活動をつかむ。 * 二人組で、尋ねたいことを決めて話を聞き合い、聞いたことをもとに自分の考えをまとめて発表することを確認する。 2. 相手にききたいことを決め、インタビューの準備をする。 * p84の学習モデルを確認し、インタビューの方法を確かめる。 3. テーマを決めて、話を聞く。 * 聞き取りメモを取りながら、話を聞くようにする。 4. 聞いたことをもとに、自分の考えをまとめて発表する。	【知識・技能】 ◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ  【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A1)エ  【言語活動例】 ・インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。(A2)イ
					2	5. 前時で学んだことを振り返る。 * 前時の活動を踏まえて、自分のめあてをもつようにする。 6. 相手を変えて、2回目のインタビューを行う。 * 相手に何をききたいか、テーマを決めて、インタビューの準備をしたうえで行うようにする。 7. 聞いたことをもとに、自分の考えをまとめて発表する。 <ふり返ろう> 8. テーマを決めて話を聞くと、どんなことに気をつけて取り組んだか振り返る。	【態度】 ・自分が聞きたいことは何かはっきりさせて相手の話をすすんで聞き、自分の考えをまとめようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	9月	2	詩を読もう 素朴な琴／鳴く虫／山のあなた 教科書:P86  □文語詩を含むさまざまな作品を読みながら、イメージの広がりを読み味わう。  ☆学習用語: 仮名遣い／歴史的仮名遣い	読む	1・2	1. 『素朴な琴』を音読する。 * 琴が閑かに鳴り始める情景を、「明るさ」「秋の美しさ」「静かさ」などから見てきたり聞こえてきたりする様子から想像する。 * どのような音が響いてくるか話し合う。 * 「ひとつの素朴な琴」とは、どのような「琴」か。具体的な形をもった「琴」か、想念から生まれた抽象的な「琴」か、それによって「音」の響きも異なってくるだろう。  2. 『鳴く虫』を音読する。  3. 虫の音を作者が何にととえているか話し合う。 * どんな虫の音がどんな宝石によって生まれるのか想像する。 * ダイヤモンドを磨くなら、どんな音がするだろうか。サファイヤなら、ルビーなら……。聴覚的なイメージが広がる。 * 磨かれたそれらの宝石は、どのような「ひかり」を出すだろうか。視覚的なイメージも広がる。 * 虫の音色と「方々の草かげがほんのりと明るい」夜の情景を想像して伝え合い、様子が伝わるように音読する。  4. 『山のあなた』を音読する。 * 歴史的仮名遣いに気をつけながら、七五調のリズムを味わいながら音読する。 * 歴史的仮名遣いについて深く触れる必要はない。なめらかに読めるようになり返し音読させるようにする。 * 「空遠く」「なほ遠く」のちがいを考え、「幸」の意味について話し合う。 * 「群読」を取り入れて、人数を行ごとに覚えて読むとよい。	【知識・技能】 ◎ 比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(1)ク ◎ 文章を音読したり朗読したりしている。(1)ケ ◎ 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア  【思考・判断・表現】 ◎ 「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C1)エ  【言語活動例】 ・ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2)イ  【態度】 ・ すずんで昔の作品を読み、学習の見通しをもって詩の世界を楽しもうとしている。
2学期	9月	8 (書く2)	四 物語のやま場を見つけ、読みを深めよう 大造じいさんとがん 教科書:P90  □ 残雪に対する大造じいさんの心情の変化を読み、「やま場」の場面を見つけたり、大造じいさんの行動に対しての考えを書いたりする。  ★ここが大事: 「やま場」を考える  ☆学習用語: 情景描写／発表／やま場／気持ち／話し手／人物像／性格／中心人物／物語の基本構造	読む	1  2～5  6  7  8	<見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 * 大造じいさんの心情の変化を考えながら読み、「やま場」の場面を見つけ、読みを深めるという単元の見通しをもたせる。  <たしかめよう> 2. 大造じいさんの残雪に対する心情の変化を考える。 (1) 大造じいさんは、がんを捕らえるために、どのような作戦を立てたか読み取り、その時の心情とともに、表に整理する。 (2) 大造じいさんが残雪に対してもっていた思いは、どのようなもので、どの場面でもどのように変わっていったのか理由とともに話し合う。 * 冒頭部に残雪のことや、大造じいさんの残雪への見方が書かれている。物語の前提として押さえておくことよい。 * 『いつか、大切なところ』で学習したこと(表情・態度やしぐさ、会話やつぶやき、情景)を生かし、心情を読めるようにする。 * 心情の指摘とともに、なぜそのような心情に至ったのかについても考えられるようにする。 * 一つの場面でも、残雪の動きによって、大造じいさんの心情が移り変わることもある。大造じいさんの性格や、前後の状況を踏まえて具体的に想像するようにさせる。 * P108「言葉」情景描写に大造じいさんのどのような心情が表現されているか考えさせる。  <くわしくよう> 3. この物語の「やま場」はどこかを考え、そこだと思った理由をノートにまとめて発表し合う。 * やま場は、中心人物が大きく変わるところである。また、読み手がこの物語のどこに感動したか、どのような事柄が心に残ったのかの根拠となる「場」でもある。 * 理由をノートにまとめるということは、「やま場」に対する自分なりの根拠をはっきりさせることがねらいである。 * 「やま場」は一箇所とは限らない。読み手によって異なる。ここではそれを話し合うこと、交流し合うことが大切である。クラスで一つにまとめることが目的ではない。  <まとめよう> 4. 心に残った場面を選び、理由や自分の考えをまとめる。 * 大造じいさんの心情や、心情の変化をふり返り、考えがもてるようにする。  <つたえあおう> 5. まとめたものを伝え合う。 * 互いの考えの違いに着目したり、よいところを認め合ったりして、考えを広げる。  <ふり返ろう> 6. 学習を振り返る。 (1) 「やま場」を見つけることで、どのようなよさがあるか考える。 (2) 心に残った場面を紹介したい物語があるか考える。 * P104の「言葉」の設問は、学習活動の中で適宜取り扱う。	【知識・技能】 ◎ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ  【思考・判断・表現】 ◎ 「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ ◎ 「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C1)エ  【言語活動例】 ・ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2)イ  【態度】 ・ すずんで残雪に対する大造じいさんの心情の変化を読み、学習の見通しをもって「やま場」の場面を見つけたり、大造じいさんの行動について考えたりしたことを文章にまとめようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	9月	1 (書く1)	言葉の文化② 鳥 教科書:P110  △「鳥」を扱った言語表現を集める。	文化	1	1. 教科書の文章から「鳥」を扱った表現や歌を知り、声に出して読む。 *「鳥」を使用した言語表現の多様さに気がつかせる。また、短歌・俳句や童謡を音読して、文語のリズムに親しませる。  2. 「鳥」に関する歌や言葉を辞典などを使って調べて、ノートに書く。 * どのような種類の辞典や参考書を見ればよいのかを考えさせる。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ  【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)  【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア)  【態度】 ・粘り強く「鳥」を扱った言語表現を集めようとし、学習の見通しをもって感じたり考えたりしたことについて文章に書こうとしている。
2学期	10月	4 (書く4)	言葉を選んで、ゆたかに表現しよう 俳句・短歌のリズムにのせて 教科書:P112  ■季語や自分の気持ちや様子を表す言葉を選び、俳句や短歌を作る。  ★ここが大事:俳句・短歌を作る  ☆学習用語:季語／俳句／短歌	書く	1	1. 教科書に載っている俳句・短歌について感じたことや表現の工夫について考え、学習の見通しをもつ。 * 俳人や歌人の作品は高等すぎるので、P110の児童の作品などからよさを見つけてほしい。 * 自分の好きな作品の一つを選んで、その情景を絵にして表現させる。そしてそのよさを交流するのもよい。  2. 俳句にするできごとを決め、そこから連想する言葉を集める。 * 植物や生き物にふれるなどの体験を取り入れ、五感を使って言葉を見つけ、書き留めるようにさせる。イメージマップなどを用いて、イメージを広げていくようにする。また、体験の中で、感じたことや気づいたことなども書き加えさせていくとよい。 * 自然とふれあうことが難しい場合は、イメージを広げられるような絵や写真を掲示して、言葉を見つける手がかりとする。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ  【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)  【言語活動例】 ・短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)イ)  【態度】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもってすすんで俳句をつくろうとしている。
					2	3. 音に合う言葉を選び、俳句を作る。 * 教科書に書かれている俳句や短歌の作り方を参考に作る。一つにかぎらず、気軽に複数作るよう助言する。 * 季語は歳時記などを参考に作らせるが、厳密にそれに従う必要はない。児童の日常感覚を大切にしたい。 * 「楽しい」「悲しい」のような心情を表す言葉を使っている児童には、その時の情景や表情などを思い浮かべるように支援する。 * ぴったりとく言葉が選びにくい時には、辞書や類語辞典を引くなどして、言葉を置きかえさせるとよい。	
					3	4. 短歌を作る。 (1)心を動かされた情景やできごとを思い浮かべる。 (2)「五・七・五・七・七」の音に合う言葉を選ぶ。 (3)作った短歌のリズムやひびきを確かめる。	
					4	5. 作品を読み合い、感想を伝え合う。 * 句会形式を取り入れたり、似ているテーマで読み比べたりして感想を交流し、俳句や短歌を作る楽しさを味わえるようにする。 * 作品の感想を伝える時は、言葉の選び方や、リズム、作品から想像されるイメージなどから、具体的なよさを言葉にして表すようにさせる。  <ふり返ろう> 6. どのような工夫をして、題材を集めて表現したのかを振り返る。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	10月	6 (話す聞く6)	五 立場を明確にして話し合おう ミニディベートAIとのくらし 教科書:P116  ◇自分の立場を明確にして、計画的に話し合い、自分の考えを広げる。  ★ここが大事:考えを広げるために話し合う  ☆学習用語:ミニディベート/根拠/出典/引用/利点/反論	話聞	1	<見通しをもとう> 1. 単元名や教材名から、本単元の目標や活動をつかむ。 * あるテーマに対して、自分の立場を明確にして、話し合うことを確認する。 * 「ミニディベート」は、3人組でそれぞれ役割を決めて話し合うものであることを確認する。	【知識・技能】 ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2ア)  【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A1オ)
					2・3	<決めよう・集めよう> 2. テーマを決めて、調べる。 (1) 自分の学級で話し合うテーマを決める。 * 「情報ノート」から関心のあるテーマを見いだしたり、考えたいテーマについてアンケートをとったりして、それをもとに決めるようにする。 * テーマは学級全体の共通テーマでも、グループごとのテーマでも、学級の児童の実態に合わせて設定する。 (2) 利点や問題点について調べる。 * ささまざまな視点で考えられるように、聞き取り調査やインタビューを行ったり、複数の資料をもとに調べたりするようにする。そのために必要な時間を確保する。 <組み立てよう> 3. 話し合いの準備をする。 * 集めた情報をもとに、利点と問題点の両方の立場から、意見や予想される質問・反論と、それに対する答えを考える。	【言語活動例】 ・それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。(A2ウ)  【態度】 ・すすんでテーマについて自分の立場を明確にして、学習課題にそって計画的に話し合い、自分の考えを広げようとしている。
					4・5	<話そう・聞こう> 4. 「ミニディベート」を行う。 (1) p.119・120の学習モデルを参照し、「ミニディベート」の流れを確認する。 (2) 「ミニディベート」を行う。 (3) 使った資料と、「ミニディベート」を通して自分が思ったり感じたりしたことをノートにまとめる。 * 「情報ノート」を活用してもよい。	
					6	<伝え合おう> 5. 感想を交流する。 (1) 前時にまとめたノートを振り返る。 (2) 感想を交流する。 * 感想の交流は次の観点で行う。 ①立場を明確にして話し合う「ミニディベート」という活動についての感想。 ②テーマに対しての自分の考えの広がりや深まりについての感想。 <ふり返ろう> 6. 学習の振り返りをする。 (1) 「ミニディベート」で話し合うとき、どんなことに気をつけて取り組んだか振り返る。 (2) 「ここが大事」を読み、ここで学んだことについて確認する。	
2学期	10月	1	漢字の広場③ 熟語の構成 教科書:P122  △二字熟語の構成や由来について理解を深める。  ☆学習用語:熟語の構成	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 * 熟語の構成について理解するという学習課題を確かめ、漢字の使い方などを理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 * 「熟語の構成」という言葉について考える。「二つの漢字の組み合わせ方」であることをおさえたい。また、互いに意味につながりがあることも再確認しておきたい。  2. 「読」「書」という二つの漢字の意味を手がかりに「読書」という熟語の意味を考える。 * 「読」と「書」との、それぞれ複数ある漢字の意味を確認し、そのうちのどの意味を組み合わせ「読書」という熟語ができているかを考えるようにする。  3. P122下段の設問で示す熟語について、読み方を確かめ、組み立てにそって読み下し、意味を推測し、話し合う。 * 「読書」のように、「上の漢字が動作を表し、下の漢字が動作の対象を表す」熟語は、下の漢字から上の漢字へと、語順を変えて読み下すと意味がわかりやすい。この機会に体験的に理解できるようにしたい。  4. 辞典が定義している意味を調べ、自分が推測した意味と比べて熟語の意味を確認する。 * 辞典で意味や用法を調べ、自分が推測した意味と比べ、熟語の意味を確認するようにする。時間に余裕があれば、短文作りや類義語、対義語調べ等を行って考えたい。  5. 二字熟語の構成のタイプを五つに分けて、理解する。 * P123に提示する五つのタイプのうち、「読書」は④にあたる。④の多くは、行為や状態を表す語で、意味が捉えにくいものが多い。丁寧に扱いたい。 * ②・③は、4年生までに学んでいる。①は語例が少ない。⑤は例示のほかに「未」があるが、④と同じように下から上に読み下して意味を推測することになる。  6. P123の設問で示す熟語について、構成を考え、意味を推測し、辞典で意味を調べて確認する。 * それぞれの文を声に出して読み、傍線の熟語の構成と意味を推測する。 [例]「本心」本当の一心(気持ち) 「決心」決める一心を * 推測した意味と、辞書に書かれている意味とを比べる。	【知識・技能】 ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1オ)  【態度】 ・粘り強く二字熟語の構成や由来について理解を深め、学習の見通しをもって熟語の構成をもとに意味を考えたり、辞典を使って調べたりしようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	10月	1 (書く1)	四年生で学んだ漢字③ 教科書:P124  △絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	2	7. 教科書の絵を見て、描かれているものについて説明する。 *教科書の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導する事柄を児童たち全体に示しやすくなる。 *絵の中にある都道府県名等の漢字の読み方を再確認する。 *絵の中の都道府県について知っていることを発表できるようにする。 *このページで表示以外の道県名は、3年生までに学んだ漢字から構成されている。  8. 4年生までに学んだ漢字を使って、絵に描かれている都道府県名を使った文を書く。 *条件をつけて文を書くよう促すと、記述の仕方に工夫が見られるようになる。 (例)絵の中の都道府県について知っていることを説明する文を書く。 二つ以上の都道府県名を入れて書く。  9. 書いた文を見直し、適切な表現に変えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 *表現を改めたり、書きまちがいを正したりして、書いた文を発表する。 *初めに書いた文と推敲した後の文を比べ、書き直してどこがよくなったかを互いに指摘し合うとよい。  10. 学習したことを振り返る。 *熟語の構成について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ  【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B1)オ  【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2)ア  【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書くとしている。
2学期	10月	1	言葉の広場③ 方言と共通語 教科書:P126  △方言と共通語について理解し、相手や場面に 応じて適切に使い分ける。  ☆学習用語:方言／共通語	言語	1	1. 冒頭のやり取りと、図を確認し、日本各地に「ありがとう」という意味の言葉は、いろいろな言い方があることを知り、学習の見通しをもつ。 *冒頭のやり取りや図を確認し、方言について調べてみたいという意欲を持たせる。  2. 教科書を読み、共通語と方言について理解する。  3. 共通語で使われる意味とは違う意味で使われる方言を調べる。 *「自分たちの住んでいる地域の方言を調べる」「あいさつの方言を調べる」など、条件をつけるとよい。  4. 教科書を読み、アクセントの意味を知る。 *教科書の例の「かき」を実際に声に出して確認する。  5. 地域によってアクセントの位置が違う言葉を調べる。 *ICT機器等で調べ、実際に声に出してみるとよい。  6. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。(3)ウ  【態度】 ・積極的に方言と共通語について理解し、学習課題にそって相手や場面に応じて適切に使い分けようとしている。
2	10月	1 (話す聞く1)	国語の学習 つながる ひろがる 教科書:P128  ◇半年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、計画的に学習できるようにする。	話聞	1	1. 半年間の国語の学習を振り返り自分が学んできたことを、「五年生で学ぶこと」を見ながら書き出したり話し合ったりする。 *上巻の教科書、学習のノート、作成物、プリント類(ポートフォリオ)などから振り返ることができるようにする。「五年生で学ぶこと」や挿し絵や吹き出しを参照する。楽しかったことを中心に思い出させたい。 *心に残っている単元や教材、学習活動、また心に残っている言葉などを具体的にメモし、発表し合う。 *友達の発表を共感して聞き交流し、学んできたことを共有できるようにする。  2. 1で出し合ったことが、他の教科や生活の中で、どんなことに生かしていけるか考える。 *国語の学習がさまざまな場面で生かされることに気づけるようにする。	【知識・技能】 ○話の構成や展開、話の種類とその特徴について理解している。(1)カ  【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(A1)ア ○「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア  【態度】 ・積極的に上巻の教科書での国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、今までの学習を生かして計画的に学習しようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	10月	10 (書く5)	<p>一 根拠となる資料にもとづいて考えを深め、自分の意見を書こう 世界遺産 白神山地からの提言——意見文を書こう 教科書:P8</p> <p>■多様な文章や資料を比べながら読み、自分の考えを深め、その考えが伝わるように根拠を明確にして意見文を書く。</p> <p>★ここが大事:意見文を書く</p> <p>☆学習用語:意見文/課題/資料/根拠/引用する/主張/反論/事例/出典</p>	読む・書く	1	<p>&lt;見通しをもとう&gt;</p> <p>1. 単元名とリード文を読み、自然保護に対する自分の意見を意見文にまとめることについて話し合い、学習の見通しをもつ。 * いろいろな資料を読み比べて自分の考えを深め、根拠を明確にして意見文を書くための学習の流れを確認する。 * どのように意見文を書くのかをイメージし、学習の見通しをもたせる。 * 意見文を読んでもらう相手を明確にする。 * 本単元は、読む活動と書く活動が融合している。P7のリード文や学習の進め方をもとに、どのように活動を進めるのか児童が理解できるようにする。</p>	<p>【知識・技能】 ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2ア)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1ウ) * 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2ア)</p> <p>【言語活動例】 ・説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。(C2ア)</p> <p>【態度】 ・積極的に多様な文章や資料を比べながら読み、学習課題にそって自分の考えを深め、その考えが伝わるように根拠を明確にして意見文を書こうとしている。</p>
					2・3	<p>2. 白神山地について知る。 * 「ブナの森が支える豊かな自然」を読み、白神山地が世界遺産に登録された経緯や、白神山地が作り出す計り知れない恵みについて知る。 * 白神山地以外のテーマで学習する場合は、5月に扱った「情報ノート」が続いているようであれば、学習資料として見返させる。自分の「情報ノート」を活用する機会をもたせたい。 * 「ブナの森が支える豊かな自然」を読み、白神山地の自然や保護の仕方をおおまかに理解させる。</p>	
					4～6	<p>3. 資料を読み、白神山地の課題を知って自分の考えをまとめる。 (1)資料1～7を読み、自然保護にはさまざまな考え方があることを理解する。 (2)斎藤さんの文章や資料1～7をもとに、それぞれの資料からわかることをノートに書き出す。 (3)資料からわかったことについて、自分の考えとその根拠(もとになる資料)を書く。 * 「白神山地の自然保護」を読み、核心地域と緩衝地域のそれぞれの役割や考え方をおさえる。また、入山届出書や新聞記事、インタビューなど、多様な資料からさまざまな考え方にふれさせたい。 * それぞれの資料からわかることをノートに箇条書きにする程度でよい。 * 白神山地や貴重な世界遺産を守っていくために、自分にどんなことができるかという視点に立って考え、それを支える根拠を資料から見つけ出す。</p>	
					7・8	<p>4. グループで考えを交流し、自分の考えを深める。 * 考えを出し合い、グループで意見を交流することで、自分の考えを深める。 * 前時でノートにまとめた自分の考えをメモに書いて出し合い、読み合う。 * それぞれの考えや取り上げている根拠について、質問し合ったり、考えを述べ合ったりする。 * 友達の考えで参考にしたいところや、自分の考えが変化したところ、新たに考えたことなどを、メモに書き足す。 * 重要なことは、自然保護に対する自分の立場をどちらかに決めることではなく、多様な考え方があることを知り、そのうえで自分が今後どう行動していきたいかを考えることである。目的を授業の中で再確認することもよいだろう。 * 交流後、改めて自分の考えを見直す時間をとる。</p>	
					9・10	<p>5. 自分の考えをまとめ、意見文を書く。 * メモをもとに意見文を書く。 * 自分の考えのもととなった文や言葉に線を引かせておくと、意見文を書くときに引用しやすくなる。 * 考えと根拠を記すことに不慣れな児童がいると思われるので、P20・21の文例を参考にさせる。 * P20・21の文例やP21「必要な情報を引用する」で、引用の仕方を確かめる。</p> <p>&lt;ふり返ろう&gt;</p> <p>6. 学習活動を振り返る。 * さまざまな資料を比べながら読み、自分の考えをまとめるときに、どのようなことを意識したか振り返る。 * 自分の考えが伝わる意見文にするために、どんな工夫をしたか振り返る。</p>	
2学期	11月	4 (書く1)	<p>言葉の文化③ 「古典」を楽しむ／日本の伝統芸能 教科書:P22</p> <p>△昔から読み継がれている物語を読み、感想を書く。</p> <p>☆学習用語:古典</p>	文化	1	<p>1. リード文を読み、学習の見通しをもつ。 * 昔から読み継がれている物語を「古典」ということ、今なお読まれている作品を読んで感想を書くことをつかませる。</p>	<p>【知識・技能】 ◎古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。(3イ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1ウ)</p> <p>【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2ア)</p> <p>【態度】 ・すすんで昔から読み継がれている物語を読み、学習の見通しをもって「古典」を読んだ感想をまとめようとしている。</p>
					2	<p>2. 『竹取物語』『平家物語』『伊弉保物語』にふれて、その文章の一部を音読する。 * それぞれの物語の概略と引用された原文の内容の大体を知り、古文を音読してみる。教師の範読にしたがって、学習者に復読させるとよい。 * 物語に寄せる、それぞれの時代の人々のものの見方や感じ方などを考えながら読むようにする。 * ここで取り上げられている物語について、知っていることがあれば発表させてもよい。</p>	
					3	<p>3. 「古典」にふれた感想を文章にまとめる。 * 「おもしろい」と感じたところや、登場人物の気持ちにおいて共感できる所、情景の描写の仕方などに着目して、感想を書くことを押さえる。</p>	
					4	<p>4. 日本の伝統芸能にふれ、演劇や絵本、マンガや映画など、多様な表現に生きている古典を集めたり読んだりして人々との関わりについて知る。 * p.28・29を読み、能や狂言、人形浄瑠璃、歌舞伎などによって、物語を劇化し、人々が楽しんでいたことをおさえる。さらに、現代でも古典に材を取った多様な作品があることに気づかせ、情報を集めたり、紹介し合ったりさせたい。 * 巻末付録の『附子』を読み合ってもよい。</p>	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	11月	2	言葉の広場④ かなづかいで気をつけること 教科書:P30  △仮名遣いのきまりを理解して、文を正しく書く。  ☆学習用語:仮名遣い/仮名/漢字/平仮名	言語	1  2	1. 学習内容を理解し、日常化への見通しをもつ。 * 教材冒頭の吹き出しから、日常の言語生活との関連を意識づける。  2. 「みずうみ」と「みかづき」の例文を読み、どの文字を入れたらよいか話し合う。 * 例文から、仮名遣いは、全て発音どおりに書けばよいということではないことに気づかせ、仮名遣いのきまりを学ぶことの必要性を感じさせる。  3. 仮名遣いのきまりを理解する。 * (1)～(5)の教材にそって、仮名遣いのきまりを確認していくようにさせる。 * 仮名遣いの原則の例外の用例を知り、習熟させるようにする。  4. 仮名遣いのきまりに気をつけて、問題を解く。 * 仮名遣いのきまりの分類を思い浮かべながら、どうい理由でその仮名遣いになるのか、発表しながら答えさせると理解がより深まる。  5. 日常の言語生活における仮名遣いを振り返る。 * 日頃、書きまちがいなどをしている語句などについて話し合い、正しい書き方を意識づける。  6. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。(1)ウ)  【態度】 ・積極的に仮名遣いのきまりを理解し、学習課題にそって、文を正しく書くようとしている。
2学期	11月	1	漢字の広場④ 漢字の成り立ち 教科書:P32  △漢字の成り立ちについて関心を深める。  ☆学習用語:象形文字/指事文字/会意文字/形声文字	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 * 漢字の成り立ちについて理解するという学習課題を確かめ、漢字の使い方などを理解させて、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 * 「字形」のみに目が向きがちとなるが、取り上げられた文字について、熟語を集め、それらを参考にしながら、「意味」や「字音」にも着目できるようにしたい。  2. 漢字の四つの成り立ちの種類について概観する。 * 単体の漢字である象形文字と指事文字については、漢字のでき方がどのように発想されているかについてふれることを通して考える程度でよい。 * 辞典によっては、成り立ちの解説で、象形・指事などの用語を使っていない場合がある。また、辞典によっては、成り立ちの解説が異なる場合があるので注意する。研究の進展によって学説が分かれるようになったためである。  3. 象形文字について理解し、設問に答えたりして、ノートにまとめる。 * 象形文字とは何かについて具体的に解説している。「手」を例に、どのような発想で作られてきたのかを考えるようにしたい。 * 象形文字には、その文字がそのまま部首になっているものが多い。  4. 指事文字について理解し、設問に答えたりして、ノートにまとめる。 * 指事文字とは何かについて具体的に解説している。「本」を例に、どのような発想で作られてきたのかを考えるようにしたい。  5. 会意文字について理解し、設問に答えたりして、ノートにまとめる。 * 「人十立一」位」という造字の方法を理解するとともに、「位一人十立」と漢字を分解して、意味を考える解字の習慣が身につくようにしたい。  6. 形声文字について理解し、ノートにまとめる。 * 形声文字の数は、漢字の80%を占めるほど多い。造字の方法の理解とともに、解字の習慣を身につけることによって、未習の漢字の意味や読み方を推測できる可能性が広がるのが理解できるようになるとよい。 * 4上P72で学んだことを想起できるようにする。  7. 漢字辞典を利用して、形声文字の意味を表す部分(部首)と、音を表す部分を確認する。 * 一つ一つの漢字の字源を明らかにし、覚えることをねらいとしていない。複数の構成要素を組み合わせることによって新しい漢字をつくってきた漢字の特性に興味・関心が向くようにしたい。 * 「音を表す部分」が共通する漢字を、関連づけて整理できるとよい。[例]「反」(ハン)→「板」「坂」「飯」	【知識・技能】 ◎語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づき、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(3)ウ)  【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって漢字の成り立ちについて関心を深め、漢字辞典で調べようとしている。
2学期	11月	1 (書く1)	四年生で学んだ漢字④ 教科書:P34  △絵を見て想像したことをもとに、4年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	2	8. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 * 絵に描かれたことと、言葉からわかるこの地域の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 * 描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。  9. 4年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 * 描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 * 条件をつけて文を書くよう促すと、記述の仕方に工夫が見られるようになる。 (例)この地域の様子を紹介する文を書く。 絵の中の言葉を二つ以上使って書く。  10. 書いた文を見直し、適切な表現に変えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 * 表現を改めたり、書きまちがいを正したりして、書いた文を発表する。 * 初めに書いた文と推敲した後の文を比べ、書き直してどこがよくなったかを互いに指摘し合うとよい。  11. 学習したことを振り返る。 * 漢字の成り立ちを正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)  【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)  【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B(2)ア)  【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書くようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動＊／留意点	評価規準 学習指導要領との対応
2学期	12月	8 (書く2)	二 表現の効果について、考えを広げよう 雪わたり 教科書:P36  □表現の工夫や登場人物の関わりをとおして、『雪わたり』の魅力を紹介する文章を書く。  ★ここが大事:表現のくふうを読む  ☆学習用語:たとえ／情景描写／たとえを用いた表現	読む	1 2・3 4・5 6 7 8	<見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。  <たしかめよう> 2. 登場人物とできごとについて確認する。 (1)登場人物の会話や行動をもとに、どんな人物かを考える。 (2)出来事を確認する。 * 四郎とかん子がきつねに会えた回数や場面を確認する。 * きつねとの出会いや、きつねに言われたこと、四郎やかん子の行動からできごとを確認できるようにする。  <くわしくよう> 3. 表現の工夫を読む。 (1)おもしろいと思う表現の工夫を探す。 ・リズムのある表現 ・たとえを使った情景描写 (2)表現の工夫や効果について考えたことを紹介し合う。 * 「ここが大事」に「表現のくふうを読む」とように、表現の工夫がこの物語の大きな特徴である。 * 「リズムのある表現」……教科書に取り上げてあるものの他にも、歌であったり、呼びかけであったり多くの箇所がある。「五・七調」が基本となっており、この物語全体のリズムを形づくっている。声に出して読み、リズムを感じさせたい。 * 「たとえを使った情景びようしゃ」……教科書で取り上げた例にもあるように、野原や林の中など、直喩(「たとえば……のよう」「あたかも……みたい」など)と暗喩(「……みたい」を使わずに、「あい色の木のかげが一面あみになって」のように例える)をふんだんに使って情景を描写している。それらが、「冬」を象徴するような冷たく鋭い透明感の中に、「あたたかさ」を感じさせているようである。  <まとめよう> 4. 表現の工夫に着目して、『雪わたり』の魅力を紹介する文章を書く。 * 教科書下段には、「リズムのある表現」と「たとえを使った表現」について、具体例を挙げて述べられている。  <つたえあおう> 5. 紹介文を読み合い、感想を伝え合う。 * 「なるほどと思ったところ」「いいなと思うところ」など、長所を中心に感想を伝え合うようにする。  <ふり返ろう> 6. 学習を振り返る。 (1)表現の工夫があることで、どのような効果があったか振り返る。 (2)物語の魅力を紹介する文章を書くときに、どのようなことに気をつけたか振り返る。 * P62の「言葉」の設問は、学習活動の中で適宜取り扱う。	【知識・技能】 ◎比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(1)ク)  【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C1)エ) ○「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C1)カ)  【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2)イ)  【態度】 ・すすんで表現の工夫や登場人物の関わりを読み、学習の見通しをもって『雪わたり』の魅力を紹介する文章を書こうとしている。
2学期	12月	5 (書く2)	読書の広場③ 「図書すいせん会」をしよう 教科書:P66  △印象に残った作品を取り上げ、推薦の仕方を工夫して、「図書すいせん会」を開き、読書の幅を広げ合う。  ☆学習用語:帯紙／ポスター／ポップ／推薦／リーフレット／パンフレット／引用	読書	1 2 3・4 5	1. 推薦の仕方を工夫して、「図書すいせん会」を開くという学習内容を捉え、学習の見通しをもつ。  2. 推薦の仕方や好きな本について話し合う。  3. 推薦する本を決めて内容を考える。  4. 「図書すいせん会」の準備をする。 (1)内容にあった効果的な方法を選ぶ。 (2)推薦の文章を書く。  5. 「図書すいせん会」を開き、推薦の文章を読み合い、感想を伝え合ったり、友達が推薦した本を読んだりする。  6. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。(3)オ)  【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C1)カ)  【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2)イ) ・学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。(C2)ウ)  【態度】 ・「図書すいせん会」を開くという学習内容をとらえ、学習の見通しをもち、それに向けてすすんで準備を行っている。
2学期	12月	3 (話す聞く1)	言葉の広場⑤ 言葉で伝える、心を伝える 教科書:P70  △相手の立場を意識しながら、自分の気持ちを言葉で伝える。	言語	1 2 3	1. 学習内容を理解し、日常化へを見通しをもつ。 * 二人の状況を「昨日の会話」から読み取らせるようにする。  2. P70・71の会話文を読み、二人のやりとりの背景を理解する。 * 二人の会話から、待ち合わせをしたときの実態を整理させる。  3. 二人のやりとりの問題点を話し合って考える。 * 事実をもとに、どのような流れが生じたのかを確認させ、問題点を導き出させるようにする。  4. 二人の仲直りの仕方を考えて発表する。 * 問題点となった「相手の立場に立つ」会話していたか、「くわしく伝えよう」としていたか「確かめよう」としていたかがどこの箇所なのか、P71の会話に戻っておさえさせると理解がより深まる。  5. P72の仲直りの会話文を読み、どういふところを大切に仲直りしたのか、「相手の立場に立つ」「くわしく伝える」「きちんと確認する」というポイントを確認する。  6. その他にも問題点があれば話し合う。  7. P73を読み、二人のやりとりの状況を整理し、理解する。 * 二人の状況は、②の冒頭にある状況確認の文に注目させることが必要であることを感じさせる。  8. 二人のやりとりに対し、第三者の立場から客観的にみて、助言を考える。 * 二人の立場の違いを理解したうえで、会話文の内容を読み取らせるようにする。  9. どのように伝え合えばよかったのかを考えて二人への助言を発表し、よりよいものを考える。 * 前の活動を受け、どちらかの立場で改善点を導くのではなく、第三者の立場で客観的に物事を見て、助言を考えさせるようにする。  10. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。(1)ア) ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)  【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A1)エ)  【言語活動例】 ・それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。(A2)ウ)  【態度】 ・積極的に相手の立場を意識し、今までの学習を生かして、相手の立場を意識しながら自分の気持ちを言葉で伝えようとしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	1月	1	詩を読もう 雪／はたはたのうた 教科書:P74  □さまざまな昔の作品を読みながら、詩の世界を味わう。  ☆学習用語:黙読／情景	読む	1	1. 『雪』の範読を聞いて、詩の世界のイメージをもつ。  2. 短詩『雪』を読み、描かれた情景について話し合う。 ＊作品を読んで浮かんでくる情景について、ペアーグループ全体という順番で感想交流をする。「描かれている場所の様子」「今の時間帯」「雪の降り方」「太郎や次郎の年齢や関係性」「誰が眠らせているのか」「題名の意味」などの着眼点を与えて、グループでの話し合いが焦点化できるように助言する。  3. 話し合いで出てきた着眼点について想像を広げ、作品の世界を味わう。 ＊舞台は町か村か、地域は東北か北海道か、時間は夕方か深夜かなど、具体的な詩の言葉を元に想像を広げて、詩の世界を自由にイメージできるようにする。  4. 情景が聞き手に伝わるように声量や間、声の調子を工夫して音読する。  5. 『はたはたのうた』を音読して、「はたはた」という魚のイメージを話し合う。 ＊「はたはた」がどんな魚かを、「すがた」「とれる日のしるし」「ごちそう」「母」などの言葉からイメージさせる。「うすべにいろ」という語がイメージできない児童がいる場合は、色の写真などを示して説明を加える。 ＊ふゆの「ならひ」という語の意味がわからない児童がいる場合は、補足の説明を加える。  6. 題名の「うた」に着目し、「はたはた」の繰り返しからどんな思いの「うた」であるかを想像し合う。 ＊「はたはた」への思いを「うた」と題して表した作者の思いを想像させる。 ＊現代の家族像は多様であるので、「母をおもふ」という後の意味を想像させる時に、十分に児童の実態に配慮して、広く「家族」という意味で捉えてよいことにする。  7. 「歌」の思いが表れるよう、工夫して音読する。 ＊「はたはた」をさまざまな面から照らして歌い上げた思いが繰り返しに表れるように読ませたい。	【知識・技能】 ◎比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(1)ク ◎文章を音読したり朗読したりしている。(1)ケ ◎親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア  【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C1)エ  【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2)イ  【態度】 ・すすんで昔の作品を読み、学習の見通しをもって、詩の世界を味わおうとしている。
3学期	1月	6 (書く6)	三 事実と意見を結びつけて書こう 生活をよりよくする提案 教科書:P76  ■身のまわりの生活から課題を見つけ、事実と意見を結びつけて提案文を書く。  ★ここが大事:提案文を書く／すいこうする  ☆学習用語:提案文／事実／取材／課題／インタビュー／漢字／構成／始め／理由／中／終わり／話題提示／推敲／司書／詩／伝わる／裏づけ	書く	1	<見通しをもとう> 1. 「学習の進め方」を読んで、活動のイメージを具体的につかみ、学習の見通しをもつ。 ＊提案文を読んでもらう相手や、書く目的を明確にし、児童の書くことへの意欲を高める。  <決めよう・集めよう> 2. 取材して、提案することがらを決める。 ＊P76「身のまわりの生活から、課題を見つけるには」や、P81「提案することからの案」を参考に、児童に課題意識をもたせる。誰に、どんなことを伝えたいかを明確にすることで、題材とする場(学校生活・日常生活など)も絞られてくるだろう。 ＊「課題」と「改善」の視点に分けて、書きたいことを整理してもよい。付箋を使って整理させる際には、P77上段を参考にしたい。	【知識・技能】 ◎文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ  【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ ◎「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B1)オ  【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2)ア
					2	<組み立てよう> 3. 提案文の構成を考える。 ＊P77下段の構成表を参考に、提案文の内容や段落構成を考える。「始め・中・終わり」とあわせて段落構成も考えることで、伝わりやすい文章になることをおさえる。 ＊身近な体験や経験を入れて書くと、自分の考えが伝わりやすくなることをおさえる。 ＊実際にインタビューなどをして事実に基づいて書かせたり、資料を引用したりするなど、今まで学習してきたことを活用してもよい。	【態度】 ・積極的に身のまわりの生活から課題を見つけ、学習課題にそって事実と意見を結びつけて提案文を書こうとしている。
					3	<書こう>(重点) 4. 読む人に提案したいことが伝わるように書く。 ＊前時で作った構成表を見ながら、文章全体の構成を考えて書く。P78・79の文例と注意点を見て、「話題提示」や「提案理由」などを入れることで、読み手にどんな印象を与えるかを確認させてもよい。	
					4・5	<読み返そう>(重点) 5. 推敲する。 ＊P78の推敲の観点に沿って、推敲させる。お互いの下書きを読み合う協同推敲を取り入れるとよい。	
					6	<伝え合おう> 6. 提案文を読んだ感想を伝え合う。 ＊クラス内で交流するだけでなく、他クラスや全校生徒に読んでもらうなど、書いてよかったという実感を児童がもてるようにする。 ＊自分の意見とその根拠となる事実を関連させながら提案文が書けているかを、よく振り返らせる。  <ふり返ろう> 7. 学習を振り返る。 ＊提案したいことがより伝わるように、どんな工夫をしたか振り返る。 ＊推敲するときには、どんなところに気をつけたか振り返る。	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	1月	2	言葉の広場⑥ 和語・漢語・外来語 教科書:P82  △和語・漢語・外来語の由来と特質を理解し、それぞれから受ける印象のちがいにについて考えることができる。  ☆学習用語:外来語／漢語／大和言葉／和語／訓読み／音読み	言語	1 2	1. 日本語には和語・漢語・外来語があることを知り、学習活動に対する見直しをもつ。 ＊教材冒頭部を読み、二つの文の違いを指摘させ、和語と漢語から受ける印象が異なることに気づき、なぜ印象が異なるのかを考えようという意欲をもたせる。  2. 和語・漢語の由来と特質について理解する。 ＊P82・83を読み、和語と漢語の由来と特徴をそれぞれノートにまとめさせる。  3. 外来語の由来の基本について理解する。 ＊P83を読み、外来語の由来をノートにまとめさせる。 ＊P83下段の設問に取り組ませ、国語辞典を用いて外来語の出自を調べさせる。  4. 外来語が、諸外国の文化の影響を受けて成り立っていることを理解する。 ＊P84を読み、外来語の由来と特徴をノートにまとめさせる。  5. 和語・漢語・外来語から受ける印象の違いや使い方の違いなどについて話し合う。 ＊P84下段の設問に取り組ませ、語感や使い方の違いについて友だち同士で話し合わせる。 ＊日常生活の中で気づいた外来語によく似た意味で使われる和語や漢語をあげ、それぞれの感じ方や使い方の違いを話し合い、その表記を使うよさについても意識させる。  6. 学習したことを振り返る。 ＊和語・漢語・外来語はそれぞれ由来や特徴が異なっているので、場面や意図に応じて適切に使い分けることが大切であることを理解させる。	【知識・技能】 ◎語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づき、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(3)ウ  【態度】 ・積極的に和語・漢語・外来語の由来と特質を理解し、今までの学習を生かしてそれぞれから受ける印象のちがいにについて考えようとしている。
3学期	2月	1	漢字の広場⑤ 同じ音の漢字 教科書:P86  △同音の漢字、同音異義語について理解する。	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見直しをもつ。 ＊同じ音の漢字について理解するという学習課題を確かめ、漢字の使い方などを理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。  2. 「強力」と「協力」が、それぞれどんな意味を表しているか、考える。 ＊二つの文を声に出して読み、文の意味を考える。 ＊二つの語の意味を推測する。 [例]「強力」(強い一力)…「力が強い」 「協力」(合わせる一力を)…「力を合わせてなにかをする」 ＊「強力」と「協力」のそれぞれの意味と、「強」「協」の意味の違いが見てわかる構造的な板書に努める。  3. 同じ音の言葉である「関心・感心」などの意味を国語辞典で調べ、文脈にふさわしい熟語をあてはめたらよいか、話し合う。 ＊どちらの熟語を使うことがふさわしいかについて、判断のよりどころとなるものを話し合う。 ＊同音異義語の使い分けには、「文脈に合った熟語を選ぶこと」「熟語の意味を考えて選ぶこと」が必要であることをおさえたい。そのうえで国語辞典で意味を調べるようにする。  4. 意味や使い方を漢字辞典で確かめて、「氏名」や「指名」などの言葉を使って文を作る。 ＊同じ読み方の漢字について、それぞれの意味が似ているか、大きく変わっているかを確認する。 ＊作った文が、それぞれの言葉の意味に合った使い方をしているかを互いに指摘し合うようにする。  5. P87の下段の設問をノートに書き、上の欄内の漢字の意味や使い方を漢字辞典で調べ、それぞれふさわしい漢字をあてはめる。 ＊同じ音の漢字の使い分けは、文脈から、それにふさわしい漢字を選ぶようにすることを意識できるようにしたい。 ＊漢字辞典で一つ一つの漢字の本来の意味を確認することが必要となる。 ＊上の欄内に掲げる漢字は、すべて形声文字である。「音を表す部分」が共通するので、同音となったり、字形も意味も似かよったりして、互いにまぎらわしい。そこで、それぞれの部分に着目し、区別することができるようにしたい。 ＊三つの例題を一度に解くのではなく、一組みずつ、漢字一字一字の意味を確かめながら進める。その際、共通する部分の意味だけでなく、異なる部分(部首)の意味の違いと熟語のつながりに着目できるようにする。	【知識・技能】 ◎文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。(1)ウ  【態度】 ・積極的に同音の漢字、同音異義語について理解し、学習課題にそって同じ音の漢字を正しく使い分けようとしている。
3学期	2月	1 (書く1)	四年生で学んだ漢字⑤ 教科書:P88  △絵を見て想像したことをもとに、四年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	2	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 ＊絵の中にある四年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ＊絵に描かれたことと、言葉からわかる病院の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。  7. 四年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ＊読み手が理解しやすいように伝えたいこと、知らせたいことを明確にして書くよう働きかける。  8. 作った文を互いに発表し合う。 ＊互いのよいところを発表し合うとよい。  9. 学習したことを振り返る。 ＊同じ音の漢字を正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ  【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B1)イ  【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2)ア  【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書くこととしている。

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	2月	5 (書く1)	<p>四 筆者の説明について自分の考えをもとう まんがの方法 教科書:P90</p> <p>□文章を読んでまんがの表現方法やおもしろさを理解し、まんがに対する自らの考えの変化を文章に表す。</p> <p>★ここが大事:絵と文章を対応させて読む</p> <p>☆学習用語:せりふ／ナレーター／筆者／段落／対応／説明的文章／役割／情報</p>	読む	1・2	<p>&lt;見通しをもとう&gt;</p> <p>1. 単元扉を読み、「まんがの方法」について話し合い、資料を有効に活用した発表を行うという学習の見通しをもつ。</p> <p>&lt;たしかめよう&gt;</p> <p>2. 筆者が取り上げた「まんがの方法」と、主張について考える。 (1)「まんがの方法」とその効果について、表を使ってまとめる。 (2)最後の二段落に着目して、筆者の主張について話し合う。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)イ</p> <p>◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B1)ウ</p> <p>○「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C1)ウ</p> <p>◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C1)オ</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2)ア</p> <p>・説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめる活動。(C2)ア</p> <p>【態度】</p> <p>・学習の見通しをもって、粘り強くまんがの表現方法やおもしろさを捉え、まんがに対する自らの考えの変化を文章に表そうとしている。</p>
					3	<p>&lt;くわしくよう&gt;</p> <p>3. 「まんがの方法」を紹介するときの筆者の工夫や表現の特徴について話し合う。</p>	
					4	<p>&lt;まとめよう&gt;</p> <p>4. 『まんがの方法』を読む前と比べてまんがに対する考えの変化について、具体的な「まんがの方法」を取り上げながら書く。</p>	
					5	<p>&lt;つたえあおう&gt;</p> <p>5. 書いた考えを友達と伝え合い、疑問に思ったところを質問するなどして交流する。</p> <p>&lt;ふり返ろう&gt;</p> <p>6. 「まんがの方法」をまとめることによる考えの変化や、考える際に気をつけたことについて振り返る。</p>	
3学期	2月	6 (話す聞く6)	<p>五 資料を使って効果的に発表しよう ひみつを調べて発表しよう 教科書:P104</p> <p>◇資料を生かした構成を考えて、効果的に発表する。</p> <p>★ここが大事:効果的な発表をする</p> <p>☆学習用語:アンケート／賛成／構成／資料／インターネット／順序／事実／具体例／要点／出典</p>	話聞	1	<p>&lt;見通しをもとう&gt;</p> <p>1. 不思議だと思うことからテーマを選び、調べて発表するという学習の見通しをもつ。 * 資料を効果的に使って発表するという学習の目標についても確認する。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>◎「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。(A1)イ</p> <p>◎「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。(A1)ウ</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。(A2)イ</p> <p>【態度】</p> <p>・すすんで資料を生かした構成を考えて、今までの学習を生かして効果的に発表しようとしている。</p>
					2・3	<p>&lt;決めよう・集めよう&gt;</p> <p>2. テーマを決め、伝えたいことの内容を考える。 (1)テーマと発表方法を決める。</p> <p>&lt;組み立てよう&gt;(重点)</p> <p>(2)発表の中心になる柱を決める。 (3)内容にそった資料を集める。 (4)柱をもとに発表の構成を考える。 * 発表時間は5分程度となることを確認しておく。またどのように資料を提示するかについても考えさせる。</p>	
					4	<p>3. 発表の準備をする。 (1)発表の仕方の工夫について考える。 * P105を参照し、「発表の構成」を表にまとめながら話し合うようにする。 (2)発表練習を行い、発表の内容と方法を見直す。</p>	
					5	<p>&lt;話そう・聞こう&gt;(重点)</p> <p>4. 発表する。 (1)グループごとに発表をする。 (2)発表を聞いたあとに、感想交流や質疑応答をする。</p>	
					6	<p>&lt;伝え合おう&gt;</p> <p>5. 自分たちの発表を振り返る。 * ここで学んだことは、今後どんな活動に生かせそうか考えさせる。</p> <p>&lt;ふり返ろう&gt;</p> <p>6. 単元全体の学習を振り返る。</p>	

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	2月	1	漢字の広場⑥ 送りがなのきまり 教科書:P110  △送り仮名について理解を深め、正しく書く。	漢字	1	<p>1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ＊送り仮名のきまりについて理解するという学習課題を確かめ、漢字の使い方などを理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。</p> <p>2. 二つの文にあるそれぞれの「集」の適切な送り仮名について話し合う。 ＊「集まる」の送り仮名が「集る」でも「集つまる」でもない。また「集める」の送り仮名も「集る」でも「集つめる」でもない。そのわけを考えられるようにしたい。 ＊格助詞に着目し、「～が集まる」「～を集める」と経験的に理解できるようにする。 ＊「読み方を区別する」「意味をはっきりさせる」という送り仮名のはたらきをおさえておく。</p> <p>3. 動詞や様子を表す言葉など、活用のある言葉の送り仮名について知る。 ＊原則として、形が変わる部分から送り仮名をつけることにしている。 例：歩く→あるいた、あるかない、あるきます、あるけば、あるこう。 ＊変わる部分の前から送り仮名をつけるものがあることも確認しておく。 例：新しい→あたらしかった、あたらしくなる、あたらしければ。 ＊辞典などを活用して調べる活動を取り入れ、自ら送り仮名の法則性に気づくようにするとともに、正しく使うことの必要性を感じることができるようになりたい。また、迷ったときには、その場で辞典などで確かめる態度も養っておきたい。</p> <p>4. 名詞のように活用のない言葉の送り仮名について知る。 ＊名詞を表す漢字には、原則として、送り仮名をつけないことにしている。 ＊名詞でも送り仮名をつけるものがあることも確認しておく。 ＊読みまちがうおそれのある言葉は、最後を送る。 例：「後ろ」「辺り」など ＊動詞や様子を表す言葉からできた名詞は、もとの語の送りがなのつけ方によって送る。 例：「晴れ」「厚さ」など ＊習慣に従って、送らないものがあることも理解できるようにする。 例：「番組」「日付」など</p> <p>5. P111下段の設問を解き、送り仮名のきまりについての関心を深める。 ＊送り仮名のつけ方に迷ったときには、活用を意識したり、派生・対応関係にある仲間の言葉を想起したりして、仲間の言葉の送り仮名に合わせるとよい。これを日常的にできるようこの機会に経験しておきたい。 例：「つもる」→「つむ」→「つみ木」→「つ・もる(積もる)」</p>	<p>【知識・技能】 ◎文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。(1ウ)</p> <p>【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって送り仮名について理解を深め、正しく書こうとしている。</p>
3学期	2月	1 (書く1)	四年生で学んだ漢字⑥ 教科書:P112  △絵を見て想像したことをもとに、四年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	2	<p>6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 ＊絵に描かれたことと、言葉からわかる学校生活の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。</p> <p>7. 四年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ＊学校生活の様子がはっきりわかるよう書き表し方を工夫するようはたらかかせる。</p> <p>8. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ＊表現を改めたり、書きまちがいを正したりして、書いた文を発表する。 ＊初めに書いた文と推敲した後の文を比べ、書き直してどこがよくなったかを互いに指摘し合うとよい。</p> <p>9. 学習したことを振り返る。 ＊送り仮名のきまりを正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。</p>	<p>【知識・技能】 ◎第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1エ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B1オ)</p> <p>【言語活動例】 ・事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。(B2ア)</p> <p>【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。</p>

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／*留意点	評価規準 学習指導要領との対応
3学期	3月	5 (書く1)	六 ノンフィクションを読み、筆者についての考えを交流しよう みずさの旅——みんながって、みんないい 教科書:P114  □筆者の心情や考えを読み、自分の考えをまとめる。  ★ここが大事:ノンフィクションを読む ☆学習用語:詩/ノンフィクション/事実	読む	1	<見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。	【知識・技能】 ◎文中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1カ)  【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C1イ) ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C1オ) ◎「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C1カ)  【言語活動例】 ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。(C2イ)  【態度】 ・積極的にノンフィクション作品の筆者の心情や考えについて理解し、学習課題にそって自分の考えをまとめようとしている。
					1・2	<たしかめよう> 2. いつ、どのようなできごとがあったのかを確認し、筆者の心情を考え、表に整理する。 *「筆者の心情」については、本文でふれていない箇所もあるので、読み手が補足する必要がある。 *「どのようなこと」については、できごとによっては全文引用ではなく、要約するようにまとめる。教科書の例の「昭和43(1968)年」の項で、「……いくつかのことを聞くことができた。」とあるが、この「いくつか」を具体的にまとめて引用することがあってもよい。 *経過年がわかるように「いつ」については、西暦を入れるようにする。	
					3	<<わしくよもう> 3. 筆者は、みずさの作品の、どのようなところに心をひかれたのか、文章中に取り上げられている作品や、「たしかめよう」で整理した表をもとに考えをまとめる。 *取り上げられているみずさ作品は、全部で3点ある。『露』は手帳の写真ではあるが、内容が読めるので参考にする。 *『大漁』については、筆者の感想が具体的に語られている。また、P128には、みずさ作品について総括的に筆者の考えが書かれている。 *「ここが大事」にあるように、「ノンフィクション」では、筆者の個人的な経験をもとに、金子みずさへの筆者の心情や考え方を捉えることができる。	
					4	<まとめよう> 4. みずさを探し求める筆者について、考えをノートにまとめ、友達と読み合う。 *「みずさをさがし求める筆者」と限定されていることに注意する必要がある。 *教科書の例では、男の子は「筆者の行動力」に、女の子は「筆者の情熱」に視点を置いている。男の子は、自分に置き換えて考えている。	
					5	<つたえあおう> 5. 筆者に対する自分の考えを友達と交流する。 *交流の際には、互いの考えの相違点に着目し、「なるほどと思ったところ」「いいなと思うところ」など、長所を中心に感想を伝え合うようにする。  <ふり返ろう> 6. 学習を振り返る。 *P132の「言葉」の設問は、学習活動の中で適宜取り扱う。	
3学期	3月	2 (話す聞く1・書く1)	国語の学習 これまで これから 教科書:P134  ■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、計画的に学習できるようにする。	書く	1	1. 一年間の国語の学習を振り返り自分が学んできたことを、「五年生で学ぶこと」を見ながら書き出したり話し合ったりする。 *上・下巻の教科書、学習のノート、作成物、プリント類(ポートフォリオ)などから振り返ることができるようにする。 *「五年生で学ぶこと」や挿し絵や吹き出しを参照する。 *楽しかったことを中心に思い出させる。 *心に残っている単元や教材、学習活動、また心に残っている言葉などを具体的にメモし、発表し合う。 *友達の発表を共感して聞き交流し、学んできたことを共有できるようにする。	【知識・技能】 ○話の構成や展開、話の種類とその特徴について理解している。(1カ)  【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(A1ア) ◎「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B1ア)  【態度】 ・積極的に一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、今までの学習を生かして計画的に学習しようとしている。
					2	2. 6年生になったら1で出し合ったことがどのように広がっていくのか、想像したり希望を出し合ったりする。 *5年生になって「またやってみよう活動」「もっと読んだり書いたりしてみよう活動」「取り組んでみたい活動」など、いろいろな観点で話し合うようにする。	